

東京クリニック

医薬品情報

TEL 03-5287-5532

Web <http://www.tokyo-clinic.jp>

Mail info@tokyo-clinic.jp

※2003年4月改訂(第2版)
1998年4月改訂(新様式第1版)

貯 法：室温保存
使用期限：外箱、容器に使用期限を表示
規制区分：要指示医薬品（注意—医師等の処方せん・指示により使用すること）

日本標準商品分類番号
872479

承認番号	(阪薬)1062
薬価収載	1958年4月
販売開始	1958年2月
再評価結果	1975年6月

プレグナンジオール製剤

ジオール®

DIOL®

※【組成・性状】

販売名	ジオール
成分・含量 (1錠中)	プレグナンジオール 2 μ g
添加物	タルク、デキストリン、乳糖、 バレイシヨデンプン
剤形	素錠
色調	白色
外形	
サイズ(mm)	直径：6.0 厚さ：3.0
重さ(g)	0.08

【効能・効果】

尋常性痤瘡

【用法・用量】

プレグナンジオールとして、通常成人に1日2～6 μ g
(1～3錠)を経口投与する。
なお、年齢、症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度については文献、自発報告等を参考に集計した。

総症例3,336例中本剤の影響として報告された副作用発現例は55例(1.6%)で、主なものは胃痛、下腹部痛各7例(0.21%)である。(再評価結果)

副作用が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

	0.1～5%未満
消化器	食欲不振、悪心、下痢、便秘、胃部不快感、胃痛
神経系	頭痛
過敏症	過敏症状
その他	下腹部痛

【臨床成績】

臨床効果

尋常性痤瘡に対する有効率は73.3%(341 / 465)である。(再評価結果)

【薬効薬理】

1.作用機序

ホルモンとしての生物活性が認められないことから¹⁾、ホルモン様作用でないとされ、临床上はステロイドホルモンアレルギー説に基づく減感作を目的に使用されている。²⁾

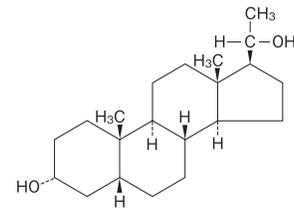
2.皮脂分泌抑制作用

尋常性痤瘡患者において、皮脂分泌量の抑制作用を有することが認められている。^{3,4)}

【有効成分に関する理化学的知見】

○一般名：プレグナンジオール(Pregnanediol)

○化学名：5 β -Pregnane-3 α , 20 α -diol



C₂₁H₃₆O₂ : 320.52

○性状：

- ・白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはない。
- ・メタノール、エタノール(99.5)又はクロロホルムに溶けにくく、アセトンに極めて溶けにくく、水にほとんど溶けない。
- ・旋光度[α]_D²⁰ : +26～+33°(乾燥後, 0.05g, エタノール(99.5), 10mL, 100mm)
- ・融点：236～243°C

【包装】

ジオール：500錠 瓶

【主要文献】

- 1) Selye H : Endocrinology 30 437(1942)
- 2) Heckel G P : Am J Obstet Gynecol 66 1297(1953)
- 3) 平山 芳ら：新薬と臨床 8 217(1959)
- 4) 菅原光雄ら：臨床皮膚泌尿器科 12 656(1958)

※【文献請求先】

田辺製薬株式会社 信頼性保証本部
〒541-8505 大阪市中央区道修町3丁目2番10号
お問い合わせ先：くすり相談室
フリーダイヤル 0120-05-1193 FAX(06)6205-5363

製造発売元
 **田辺製薬株式会社**
大阪市中央区道修町3丁目2番10号

7-712040